

令和7年 第2回ボランティア交流会 報告

茅野市こども読書活動応援センター 名取

- 📅 日時：令和7年12月14日（日）10：15～12：15
- 📍 場所：茅野市図書館 どんぐり図書室・2階会議室（おはなしのへや）
- 👥 参加者：大人24名・子ども4名・読りーむ in ちの広報1名 計28名

内訳 楽しいおはなし会実演講師：1名
読書ボランティア：7名・図書館職員：1名
読りーむ in ちの：6名（講師以外）
教育長・学校教育課・生涯学習課 6名
一般来館者 大人2名 子ども4名

1 たのしいおはなし会

読書の森 読りーむ in ちの会長・玉川小読書ボランティアけやきフレンズ
玉川のびのび館おはなしボランティア 奥原貴美子さん

プログラム：手あそび『松ぼっくり』

パネルシアター『森のクリスマス』

増田裕子のミュージックパネル

発行／かえるちゃんオフィス

絵本読み聞かせ『ジオジオのかんむり』

岸田衿子さく 中谷千代子え

発行／福音館書店

絵本読み聞かせ『きょうはそらにまるいつき』

荒井良治 作・画

発行：偕成社

～感想より～

- ・パネルシアター、絵本ともにやはり生の声で語りかけられるのは、とても心が安らぎました。
- ・とても楽しかったです。読み聞かせ前のパネルはいいですね。ありがとうございました。
- ・『ジオジオのかんむり』とてもなつかしく、やはり名著だなあと感じました。パネルシアターも楽しかったです。

『きょうもそらにまるいつき』お月さまの暖かさ。やさしさがほのぼの伝わってきました。

- ・『まつぼっくり』の手あそび、脳トレで楽しかったです。パネルシアターも、クリスマスが近かったので良かったです。歌もみんなで歌えて楽しかったです。読み聞かせもよかったです。参加者の女の子が奥原さんの真似をしていてかわいかったです。
- ・一般の利用者さんも来ていただけて、とてもよかったです。



どんぐり図書室での開催は、今後も続けてほしいです。

- ・なかなか実演をみせていただく機会がないので、とても楽しい時間でした。『きょうも…』は、自分で見るより、じっと絵を見ながら言葉をそえてもらくと、より楽しめる絵本でした。
- ・図書館に来館した親子が参加してくれて、嬉しかったです。

2 教育長あいさつ

(今回は、ボランティアの皆さんの輪に混ざってお話していただきました)

- ・先日の人権のつどいでは、茅野市の中学生の作文が1000以上。そして賞をいただいた半分以上が茅野市の中学生。永明中の二人が発表しました。

作文を書くと言って書けるものではありません。積み重ねが大事。小さい頃から読み聞かせをしてもらって、ことばとところを育てる読書活動に取り組んできたことが子どもたちの力になっています。表彰された子の中には、調べる学習にも取り組んで、良い作品を出している子の名前がありました。読んでもらったり読書をしたりして力をつけている子どもたちです。子どもたちと本を繋いでくださっているみなさんのおかげです。

今、AIで調べることもできますが、生成AIについて知りたいと思えば、それも本で説明されています。本から確かな情報を得ることも大切です。

- ・本の紹介

『ビジュアル博物館 ネコ科の動物』ジュリエット・クラットン＝ブロック著 同朋舎出版
このページ（親子が寄り添う姿）を見ているだけで心が癒されます。

『ロバのおうじ』グリム童話 バーバラ・クーニー絵 ほるぷ出版

絵を見ているだけで、いろいろ語れます。

本を通じて、これからもよろしくお願いします。

3 交流会 ～ひとこと&最近の小学生への読み聞かせについて～



・最近の小学生は、お話を読まない、読めない子もいて、けっこう危機的な面もある。いろんな魅力的な本がたくさんあるのに、物語を読むことが減っている。

図書館や教室でもっと先生に本を読んでもらえるように働きかけたい。本が全てではないけれど、本を読んで心を育てることを大切にしたい。

・ボランティア先の学校で「おはなしの部屋」の機会がある。テーマを決めて（今回は秋の人権週間に合わせて「ともだち・なかよし」）パネルシアターや大型

絵本の上演をした。長く続けたい。そのためにもお母さんたちに入ってほしい。

図書館でもおはなし会があるが、お家の方が連れてこないと出会えない。

学校で（おはなしの部屋のような）時間をもらえると、ありがたい。

- ・「特別おはなし会」を実施している学校もある。

「おはなし会」となると、集まっての練習も必要。そういう時間を見つけるのも大変。次の世代へのバトンタッチが課題。

「読み聞かせ」は、PTA活動でうまく繋がっていると思う。

- ・『諏訪のでんせつ』の北山に関するお話を紙芝居にしたいと出版社を通じ竹村さんのご家族に著作権の許諾を取った。作者への敬意や作品への思いが伝わり快諾し

ていただいた。

- ・子どもたちにいろいろな本に出会ってほしい。自分自身が乱読。今の子どもたちに伝わるか分からないけれど、ほっこりした心の中に花が咲く本。
- ・コミュニティスクールの会議で、校長先生から「読み聞かせのおかげで、読解力の記述が全国平均以上。自分で考える力を養っているから」とお聞きして嬉しかった。
- ・学校で定期的に読み聞かせをしていたら、子どもがその本を手取るようになった。
- ・読み聞かせに行って終わった後集まって振り返りをしている。その時間がとても大切だと思う。
- ・読んだ本の情報を共有するようにしている。
- ・読み聞かせをするようになって、小さい頃読んだ本ってこんなお話だったっけと思った。3年たって、子どもたちに声をかけられるようになった。自分にとってもよい経験。
- ・市内と原村でボランティア。小6まで父母に読んでもらっていた。ファンタジーで心を育てられたらいいと思う。保育園でも語りをすることがある。小さい子どもでも想像しながら聞ける。小学校でも語りをすることで、想像することを味わってほしい。
- ・大人たちが「いいな」と思うのと、子どもがいいなと思うのは違うこともある。大人が好き嫌いをしないで、こうしてやろうではなくて、感性の部分を大切にしたい。
- ・保育園で読んでもらっている子とそうでない子では、こんなに違うのかと思ったので、読んでもらっていなかった園（市外）に、読み聞かせに入ることを提案し小学校のボランティアと一緒にやっている。
- ・小学校5年生に「三まいのお札」の語りをしたとき、聞いていたか分からないような男の子が、「おれ、山姥が化けるところ、大根の穴から見えた」と言ってくれた。子どもってすごいなと思った。
- ・これいいなと思っても、10分以内で読めないと残念。
- ・ただだまって聞いているだけでなく、感想を友だちに話したり、大人と話したりすることも大切。
- ・子どもは耳で聞いている。
- ・玉川のびのび館、月に一回おはなし会と作って遊ぼうをやっている。赤ちゃんから小学生まで。藤田浩子さんの道具を使ったお話をすることもある。
- ・人権読み聞かせ。8人の人権擁護委員が分担して、市内の学校の全部のクラスに入るように計画。子どもたちが真剣に聞いてくれる。「子どもたちが耳を傾けてくれるのは、ずっと読み聞かせをしてたからだね。」という声もあった。
- ・娘に読み聞かせをしていた。大きくなって、娘が読み聞かせをしてくれた。今は孫に読み聞かせをしている。
- ・子どもたちが喜ぶ本をダメとはいえない。選んでくれる気持ちを大切にしたい。
- ・高学年には、長いお話も読んでほしい。

交流会で紹介された本のリスト

書名	著者名 等		出版社名
あかいてぶくろ	林 木林/文	岡田 千晶/絵	小峰書店
にじいろのさかな (ブラックシアター)	マーカス・フィスター/作・絵 谷川俊太郎/訳		講談社
トラネコとクロネコ (大型絵本)	宮西 達也/作・絵		鈴木出版
水曜日の本屋さん	シルヴィ・ネーマン/作	オリヴィエ・タレック/絵	光村教育図書
白い街 あったかい雪	鎌田 實/文	小林 豊/絵	ポプラ社
花さき山	齊藤 隆介/作	滝平 二郎/絵	岩崎書店
おばあちゃんの白い鳥 ～ガザのものがたり～	マラク・マタール/作 さくま ゆみこ/訳		講談社
おもいのたけ	きむらゆういち/文	田島 征三/絵	えほんの社
くろうまブランキー	伊東 三郎/作	堀内 誠一/絵	福音館書店
やっぱりおおかみ	ささき まき/作・絵		福音館書店
はぐ	佐々木 マキ/作		福音館書店
パンダなりきりたいそう (シリーズ)	いりやまさとし/作		講談社
てぶくろ (ウクライナ民話)	エウゲーニー・M. ラチョフ/絵		福音館書店
てぶくろの木	クヌー・ホルスト/文		ブックローン出版
ひぐまのあき	手島圭三郎/絵・文		絵本塾出版
三まいのお札	日本の昔話	おはなしのろうそく	東京子ども図書館

4 今後のボランティア交流会について 要望・意見など

- ・ どんぐり図書室のおはなし会は、子どもさんも一緒に楽しむことができてよかった。そうすると土日の午前中開催がいいか。
- ・ 平日は仕事で参加できないこともあるので、土曜日にも開催してくれるのはありがたい。